

<b>授業科目名</b>	教育相談の理論と方法 A (初等) (2100208)		
<b>時間割名</b>	教育相談の理論と方法 A (初等) (32111)		
<b>時間割担当</b>	岡村季光		
<b>実施期</b>	後期	<b>単位数</b>	2 必修
<b>曜日・時限</b>	水・2		

### 授業の目標・概要

学校では、いじめ・不登校・学級崩壊・保護者との連携など、さまざまな問題が起きている。それらの現象に実際に対応するのは、現職教員である。問題がこじれずに、早期発見し、早期に的確な対応ができるようになるために学ぶ。

### 学習の到達目標

児童の心理的・身体的発達の知識を得て、児童理解を深める。教育相談の基礎的知識（理論と方法）を学び、生徒指導・進路指導・教育相談に役立てられる。学校内（教員及び養護教員、校医、スクールカウンセラーなど）及び学校外（家庭・地域社会など）との連携の在り方を学び、学校内の問題に対処できる。

### 授業方法・形式

- 1.それぞれの学習テーマに対して、テキストや補助資料を活用しながら授業を進めていく。
- 2.必要に応じて、取り上げるテーマに関するディスカッションを行う。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション  
背景となる社会や時代の変化、それに伴う一般的な子どもの変化や特徴を把握する。
- 第2回 家族をとりまく背景  
母親・父親の役割と子育てへのかかわりについて考える。
- 第3回 児童の発達について  
エリクソン・ハヴィガーストにおける発達課題を学習する。
- 第4回 アセスメントの理論と実際  
児童を理解する際に必要な情報の種類・集め方・活用について、アセスメントや心理検査などを学習する。
- 第5回 援助サービス内容と支援の方法  
問題にチームで連携するために、援助の担い手や具体的支援の方法を学ぶ。
- 第6回 教育相談の3段階  
教育相談には「啓発」「予防」「治療」という3段階を学び、教員として何ができるのかを考える。
- 第7回 学業相談  
査定の仕方、教員側の要素、児童側の状況を見立てる方法などを理解し、的確な学習指導とは何か考える。
- 第8回 キャリア発達  
キャリアの目的、時期や内容について具体的に学ぶ。
- 第9回 適応相談  
適応と不適応とは何か考え、適応相談における教師の役割を学ぶ。
- 第10回 危機介入  
児童における危機の定義を学び、いつどのような方法で介入できるのかを学習する。
- 第11回 不登校  
子どもたちの対人関係の変化に注目し、不登校の各段階での対応の仕方について学習する。
- 第12回 発達障がいの理解  
ASD、ADHD、LDの特徴を学習する。
- 第13回 発達障がいの支援  
ASD、ADHD、LDそれぞれの特徴に応じた支援方法を学習する。
- 第14回 いじめ・暴力に対する支援  
いじめのメカニズム、原因を学び、いじめについて学習する。
- 第15回 いじめを起こさない素地作り  
いじめの構造を学習し、いじめを起こさない素地作りを考える。

### 成績評価の基準

必要に応じて授業中に行う小テストを中心に評価し、授業に対する理解度をチェックする（30%）。さらに学期末テストにおいて総合的な理解を確認する（70%）。

### 授業時間外の課題

授業終了後は授業で指示したテキストの該当箇所を読み、ノートにまとめる。小テストで理解できていない箇所は必ずテキストで該当箇所を調べる。

### メッセージ

### 教材・教科書

テキスト：小泉令三（編著）『図説 子どものための適応援助：生徒指導・教育相談・進路指導の基礎』（北大路書房、2006年）

### 参考書

参考書：授業中に指示する